

戸隠連峰 西岳縦走 (一夜山コル～西岳～本院岳～八方睨)

小暮 他

【日時】 2007年12月29日(土)～2008年1月2日(水)

【メンバー】 小暮(L)、笹川、矢野

戸隠連峰。昨年2月に、P1尾根に登ったときに感じた手ごたえと充実感、そして麓から見上げる屏風のような険しい山壁にすっかり魅せられてしまった。年末年始は、戸隠連峰の概念をつかみ東面の各リッジの様子を確認してみようと思い、主稜線を南から北へと縦走する計画を考えた。

戸隠連峰は主に3つに大別することができる。八方睨～五地藏山までを表山、八方睨～最南端の一夜山までの西岳、五地藏～北西の高妻山、乙妻山までを裏山と区分できる。今回は、登山道の無い一夜山から八方睨までの西岳を縦走する計画である。調べてみると登った記録はほとんど見当たらず、30年近く前に地元の山岳会のグループドモレーヌやロックアンドブッシュによって縦走されている位であった。主稜線には登山道も無く、部分的にある一般登山道もかなり険しいことがマイナーな理由だろうか。

戸隠主稜線は東面の尾根に比べれば難易度も低いと思われ、標高も2000m程度であり北アルプス等の3000m級の山岳より風も厳しくなく、気温も高い。また戸隠連峰の気象条件は、後立山の陰になっているためか八ヶ岳の条件に近いらしく、強い冬型の気圧配置の場合は雪となるが、弱い冬型では曇もしくは晴れ間が見えるような天候であることがわかった。これらの条件を考慮すれば、事前の天気予報では、年末年始は冬型で山は大荒れだが、なんとかこなせるだろうと考えていた。



1日目 12月29日(土) 雨のち曇 財又～一夜山コル～P8

前夜、財又集落からから一夜山登山口へ向かう道路に少し入った所に車を止めてテントを張った。朝起きてみるとあいにくの雨。最初からびしょ濡れになったら、

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>

かなり苦勞するでしょうとのことで、二度寝に入る。この先の天気を見ると、果たして計画通りに行けるかあきらめムードも漂うが、しばらくすると雨が止んだ。やっとやる気が出てきた。早速、準備して出発する。時刻は既に10時をまわっていた。冷沢沿いの林道を歩いていくが、雨のためか雪がかなり溶けて減ったようで黙々と歩を進める。

一夜山に登るか計画時に悩んだが、日程の都合で今回パスすることとし、林道から適当な斜面を登って一夜山の北のコルを目指す予定だ。西越開拓地を過ぎると夏の登山口の駐車場に出た。林道の途中で、一夜山の北のコルを目指して樹林の斜面に取り付く。藪がうるさく滑りやすい斜面で少々疲れる。急斜面のラッセルをこなすと稜線に出た。稜線上は雨で雪が溶けて少ない。主稜線は少々藪っぽく小さなアップダウンが連続している。ラッセルもあまり深くないため、ハイペースで進んでいく。雨が過ぎてしまえば穏やかな一日だ。これからの長い縦走と明日からしばらく続く強い冬の天気予報を考え、今日が稼ぎ時だと距離を伸ばす。結局、日が暮れる前まで頑張ってP8 (p. 1661) の少し先にテントを張った。(記：小暮)

2日目 12月30日 (日) 雪 P8～P1



テントを開くと外は静寂。そしてひとときの青空。出発時には雪が舞うものの、視界、風共に行動には支障ない程度。夜間にも大して降雪はなかったようだ。アイゼンとわかんを履いて、もなか雪ラッセルを開始する。地形図から見て連続する小ピークはあつという間に通過できると考えていたが、足をとられるモナカ雪ラッセルとなるとこれらが随分と大きなアップダウンに感じられ、ほぼ一つの小ピークごとにラッセルを交代しながら進む。しかも地形がよく似ており、間違いなく稜線を北へ北へと向かっているにも関わらず、同じ小ピークを繰り返して登っているような嫌な錯覚に陥る。時にモナカを割らないよう、体重を分散するために四つんばいになりながら登る。ザックを背負ってのその姿は新種の動物が現れたかのようだ。徐々に東側の断崖が姿を現し、P7に到着。P7直下は東面の断崖寄りを登るが、岩、草付きに雪が少しのっており、アイゼンをしっかり利かせないと転落が怖い。その後も延々と迫力のある断崖を横目にP6～P1まで。その間、時に岩峰の西側を木登りラッセルしながら通過していく。P3の下降に懸垂40mをしたものの、その他では東側に寄りすぎでの雪庇踏抜きに注意を要する程度である。日が傾いて冷え始めた16:00

頃に小暮さん、笹川さんが見覚えのあるというP1に到着し、第一幕が終了したような印象を受ける。そのP1北直下の斜面を整地し、本日の宿とする。

3日目 12月31日（月）雪 P1北～西岳～本院岳～コル

昨日と同じような朝。ただ、雪は更に深くなっている。パウダーだが腰上になると重みが違う。C.2から緩々と登り続けて今ルート上の盟主西岳のピークに到達するが、当ピークはこれまで越えてきたものと比較して存在感が薄い印象である。そこは早々に通過し、懸念箇所であったキレットの下降点に立つ。尾根から少し西側に降りた所から鞍部を目指して懸垂開始。



東寄りにルートを取るべきところだったが、視界不良のためやや重力に従ってしまう。下が見えた時にはかなり下降しており、無理矢理鞍部方面にトラバースしたがこれがまずかった。降り立ったのは鞍部直下の小スペース。ザイルを引くとひどく固いものの、動いたためにセカンドにコールし、到着を待つ。ところが、セカンドの小暮さんが降りてザイルを引くと、これがびくともしない。ラストの笹川さんに斜め懸垂でラインを真直ぐに直してもらい、漸く回収ができた。ここで2時間程度と余計に時間を使ってしまった。気を取り直し、本院岳に向かって再びラッセルを開始。本院岳北の小ピーク（マイナーピーク）を登り返すと一気に下降と思ったが、凹があちこちに認められて辿るべき尾根が判然としない。地図、地形、あちらこちらを確認して裾花川側の西面を大きく巻くように進み、漸く明確になった尾根を見つける。徐々に斜度が増し、東面の岩壁が穏やかになってきたところで東に伸びる尾根を目指し、夏道沿いに東面下降、トラバースに入る。岩壁下部を通過するので雪崩に警戒が必要である。そのトラバース、東尾根共に雪の量が一段と増し、下りも必死のラッセル。鞍部に降りた所でc.3とした。連日長丁場だが、皆モチベーションが高いままだ。（記：矢野）

4日目 1月1日（火） 雪 コル～八方睨～奥社手前

昨晩は、遠くで風音が気になるものの、テントに風が飛んでくることはなかった。積雪は約50cmプラスで、腰ラッセルが胸ラッセルとなった。無雪期であれば1時間強位で八方睨に立てそうだが、この雪で今日はどこまで行けるだろう。一不動の登山道や五地藏山東尾根の下降ルートも考えてはみたが、これ以上ラッセルを続けたくない

事と雪崩の危険もあり、予定通り八方睨登山道から下降することにした。

今日もラッセル1号矢野君が先頭に立って出発。雪は多くなっているものの、さすがにスピードダウンを感じさせない。最後ぐらいはラッセルしようと思うのだが、私が先頭に立つとパーティのスピードが落ちてしまう。私のラッセルを見兼ねたラッセル2号小暮さんが、早く代われと言ってきたので、仕方なく交代。胸まである雪を膝で踏み固めていたのに、小暮さんは腰までの雪を水中を歩くようにスイスイと行ってしまふ。この2人がいなければ、ここまで来れなかったのは分かっているが、一人ラッセル消化不良となってしまった。

1時間半位進んだところで、八方睨と思われる岩峰が見える。しかし、この辺りから雪が重くなり、なかなか山頂に近づけない。深雪の中、登山道の看板を見つけ、久々に人工物を目にしたので、なんだかホッとした。

山頂直下は急登で雪質が変わり、モナカ雪の下の不安定なサラサラ雪を騙し騙しで、ダブルアックスで登る。ここでも2人は木登りで抜けてしまい、一人苦勞した。

山頂に燃料と食料をデポしていたので回収しなければならない。前週、雪を被せた程度にデポしておいたのだが、すっかり足元より下になっている。せっかくなのでデポしておいた行動食をつまみながら休憩したが、今回もピークからの視界が全くないのが残念だ。

蟻ノ戸渡りは12月に西窟尾根経由で往復していたので様子は分かっていたが、今回はだいぶ雪がついている。前回は50mロープ2本を結び合わせ、結び目の通過に苦勞したので、今回は途中の灌木でピッチを切る事にした。

1ピッチ目は小暮さんリードで雪を崩しながら進む。この緊張感の最中、12時を知らせるチャイムが里から聞こえ、違和感を感じる。続いて笹川がアッセンダーで進むが、このルートは何回歩いても怖い。1番細い箇所は幅が15cm位しかないのだが、今回は荷物が重く、前回踏み抜いたのを目にしていたので、絶対落ちないように注意する。

ラストの矢野君にそのまま2ピッチ目をリードしてもらおうが、見ているだけで呼吸が乱れ、疲れる。岩場の核心を通過したところで、雪庇がズバッと大きく切れ落ちたのでビックリしたが、矢野君本人は何ともなかったのが良かった。

その先は、問題ないようにも思えたが、さっきの雪庇とその先の懸垂を考え、ラストの小暮さんにロープを引いていってもらおう。

前回、樹林帯をトラバース気味に過ぎたところも、雪庇が張り出しトップは怖いだろうということで、確保する。

すぐに胸突き岩の懸垂ポイントとなるが、前回使用した残置シュリングが埋まっている。懸垂も雪が深く、雪に足をとられながら下りるのが面倒だ。

ここから先の下降は鎖も埋まっいて、下見をしていなかったら、かなりルートファインディングが大変だったと思う。

結局、今日は4ピッチのスタンディングアックスと懸垂下降3回で、7ピッチもロープを出した。

西窟で、休憩を取りながらこれからの行動について話し合う。最終的に今日中には車までは戻れないが、奥社近くまで行こうという事になる。

明日の奥社の初詣を楽しみに腰をあげる。今回も百間長屋のお地蔵さまに挨拶して雪崩に気をつけながらラッセルを続ける。

途中で登山道を外れた事に気がついたが、このまま下ってもささやきの小径に突き当たると思い行動を続けたが、暗くなり始めラッセルにも飽きたところでテントを張ることにした。考えてみたら長い1日だった。夜は奥社と思われる所から灯りが見えた。また、びしょ濡れシュラフの一夜を過ごさなければならない。



5日目 1月2日 (水) 晴

朝、出発するとすぐにトイレが見える。明るくならなければ分からなかったが、参道から50mの所に泊まっていた。

参道脇に荷物を置き、奥社に向かう。今日は昨晚までの雪もやみ、青空が見える。お参りの後、社務所が開くのを待って全員でおみくじを引くことにした。ここは性別と生年月日を言っておみくじをもらうシステムで、それぞれ大吉・吉・小吉と正月から縁起が良い。

奥社駐車場でタクシーを呼び、車のある財又まで向かう。車窓から今回のルートを確認できたが、改めて長いことに驚いた。車から100m手前のところで除雪が終わっており、車の救出に1時間もかかってしまった。本当に最後まで気の抜けない山行だった。(記：笹川)

【行程】

12/29 財又(10:25)～西越分岐(12:25)～一夜山コル(14:40)～p. 1661先c. 1(16:40)

12/30 c. 1(7:15)～P7(9:50)～P5(12:20)～P4(13:00)～P1北直下c. 2(16:30)

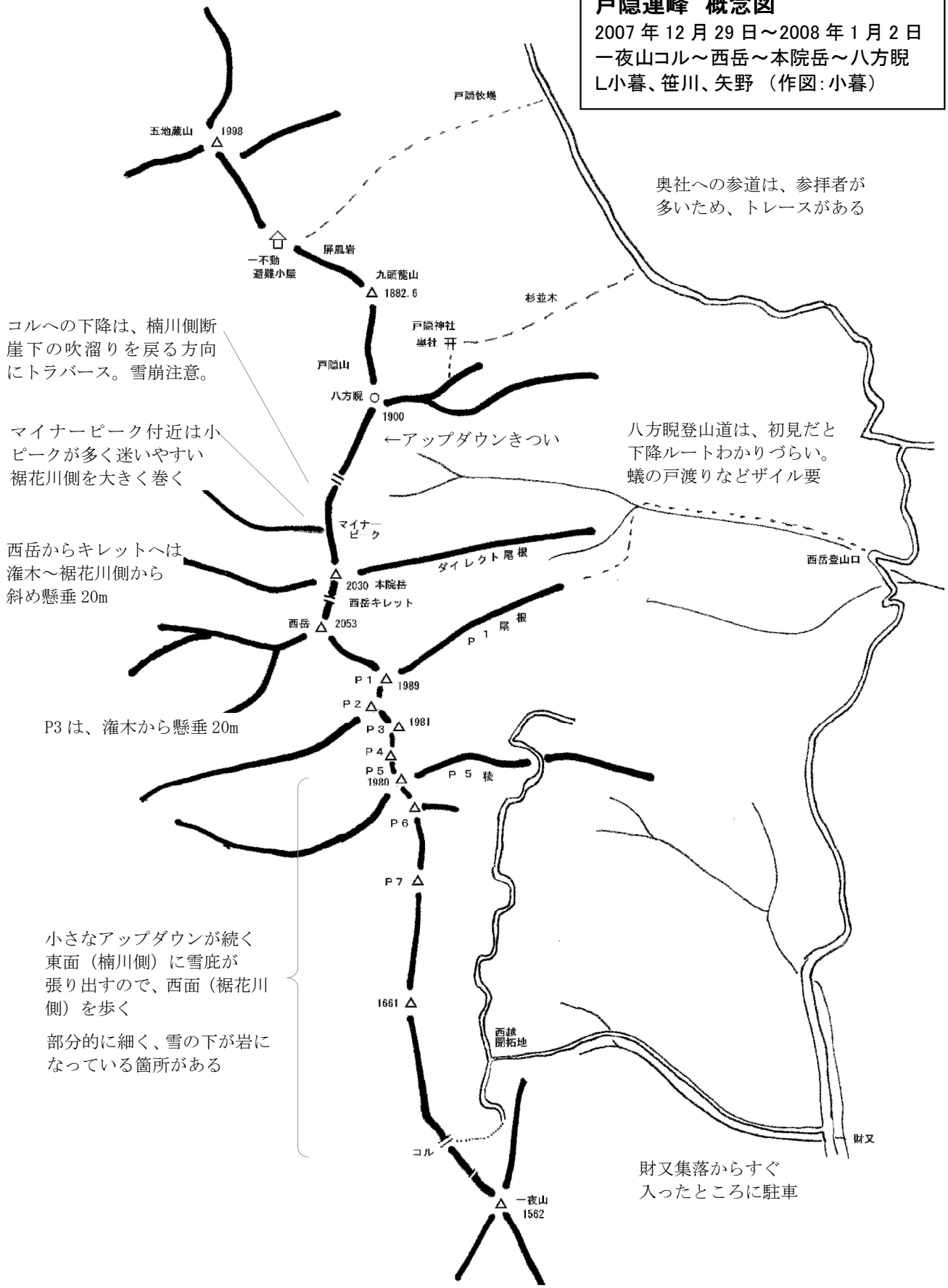
12/31 c. 2(7:50)～西岳(9:30)～本院岳(12:50)～マイナーピーク(14:00)～p. 1719
コルc. 3(16:20)

1/1 c. 3(7:30)～八方睨(11:00)～西窟(15:10)～奥社付近c. 4(16:50)

1/2 c. 4(8:30)～奥社(8:40/9:10)～奥社入口(9:45)

【地形図】 塩島、戸隠、高妻山

戸隠連峰 概念図
 2007年12月29日～2008年1月2日
 一夜山コル～西岳～本院岳～八方眺
 L小暮、笹川、矢野（作図：小暮）



※注：過去の資料を確認すると、P1～P8の名称、位置が違っている場合もあるようだ。本図は、登山体系で使用している名称に従い、地形図の第三峰をP5としている。